



POINT 1  
COVID感染後の方だけでなく  
ワクチン接種後の方も対象

POINT 2  
西洋と東洋の  
両視点で診療

POINT 3  
漢方の強みを活かして  
困っている患者様に寄り添う



コロナ  
後遺症

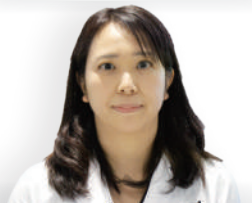
順天堂医院漢方診療の  
新たな取り組み

9:23  
Long COVID 漢方外来  
コロナ感染後遺症患者のための漢方診療

順天堂大学医学部附属順天堂医院では2021年10月1日にCOVID後遺症関連の相談窓口「Long COVID 漢方外来」を総合診療科に開設しました。同外来の特徴として、COVID感染後の後遺症に悩む患者様だけでなく、ワクチン接種後の体調不良に悩む患者様も対象としています。また、漢方診療と総合診療を専門としている医師達により、西洋と東洋の両視点で診療にあたっています。実際の外来受診者の訴えとしては、困っている症状に耳を傾けてほしい、相談にのってほしいという方がほとんどであるため、患者様に寄り添った医療という強みを活かせる診療が漢方であると原田先生は考えています。



順天堂大学大学院医学研究科  
漢方先端臨床医学 特任助教  
**原田 佳尚 先生**  
●専門分野  
漢方医学、脳神経外科、脳卒中



順天堂大学医学部  
総合診療科学講座  
漢方先端臨床医学 准教授  
**齋田 瑞恵 先生**  
●専門分野  
内科一般、予防医学



POINT 1  
PCOSの診断基準

POINT 2  
糖代謝異常と  
PCOSとの関係

POINT 3  
PCOSの治療方針



不妊症

多嚢胞性卵巣症候群の  
診断と治療のポイント

9:24  
14:47  
Part1  
Part2  
多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)の  
疾患概要と治療の現状

多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)は、生殖年齢女性の10人に1人の割合で発症し、不妊症の原因にもなります。頻度の高い疾患であるにも関わらず、診断や病態の理解が難しいといわれています。症状は月経異常や不妊という産婦人科特有のものだけでなく、糖尿病や心血管障害、うつ、不安障害なども伴うことがあるため、産婦人科だけでなく長期にわたって他科と連携して治療すべきと考えられています。



東京大学医学部附属病院  
女性診療科・産科/女性外科  
准教授  
**原田 美由紀 先生**

●専門分野: 生殖内分泌  
●所属学会: 日本産科婦人科学会、生殖医学会、日本産科婦人科内視鏡学会、日本内視鏡外科学会、日本女性医学学会 他



高血圧症

医師会員限定動画

# 糖尿病合併高血圧における食塩感受性とエサキセレノンの降圧効果

5:27



- POINT 1 糖尿病合併高血圧と食塩感受性
- POINT 2 食塩感受性を考慮した降圧治療
- POINT 3 エサキセレノンの臨床成績

糖尿病を合併する高血圧の治療では血圧のコントロールに苦慮することが多く、その原因の1つに食塩感受性の増大がある。この食塩感受性に加え、糖尿病自体も血漿アルドステロン濃度に関係なく、病的なMR (Mineralocorticoid receptor) の活性化を引き起こす。このようなMRが活性化した糖尿病合併高血圧では、MRBが有効な場合が見受けられる。そこで、エサキセレノンのアルブミン尿を有する2型糖尿病合併高血圧症患者を対象とした臨床試験を紹介する。

提供：第一三共株式会社



近畿大学医学部 腎臓内科 主任教授

有馬 秀二 先生

●ご紹介：1990年 東北大学卒

●所属学会：日本高血圧学会、日本腎臓学会、日本老年医学会、日本内科学会 他

がん検診

# コロナ禍の“受診控え”に対する懸念 肺がん検診とコロナ禍

Part1  
10:38  
Part2  
11:05



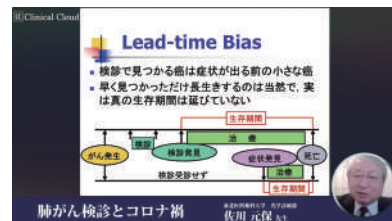
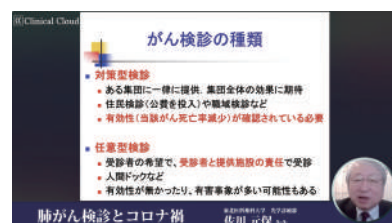
- POINT 1 正しく理解する検診と死亡率
- POINT 2 がん検診受診率減少による未発見がんへの懸念
- POINT 3 コロナ禍の対策型がん検診の必要性

新型コロナウイルス感染症の影響により、がん検診の受診率が30%減少した2020年。減少した受診者数に2018年度の各がん発見率を掛けて推計すると、約2,100のがんが未発見となっている可能性が示唆されています。そこで本コンテンツでは、コロナ禍における肺がん検診の現状について、東北医科薬科大学の佐川先生に伺いました。検診の種類や有効性評価など詳しくお話いただきましたのでぜひご視聴ください。

東北医科薬科大学  
光学診療部 教授

佐川 元保 先生

●専門分野：肺癌の診断・治療、がん検診など



周産期医療

# 宮崎県における周産期地域医療連携

Part1  
4:03  
Part2  
4:21  
Part3  
4:03



宮崎県は南北に長く、太平洋と九州山脈に囲まれ、年間出生数は約10,000人となります。交通網の限られた条件下で、宮崎大学を中心とした周産期医療体制をどのように構築し、周産期予後の改善に取り組んできたのでしょうか。詳しく伺いました。



宮崎大学

学長 鮫島 浩 先生

宮崎県における周産期地域医療連携

- ① 宮崎県における周産期地域医療連携
- ② 二次医療施設における各院の役割分担
- ③ 二次医療施設から三次医療施設への紹介指針
- ④ 母体の状態による高次医療施設への紹介指針
- ⑤ 産科救急症における体制整備について

分娩時医療情報ネットワークシステム

- ① 分娩時医療情報ネットワークシステムについて
- ② 分娩時医療情報ネットワークシステムのメリット
- ③ 妊婦・搬送先施設・搬入先施設のメリット

周産期地域医療連携の現状と進展

- ① 新生児の分娩後後方支援体制について
- ② 人材確保と育成への取り組み
- ③ 今後の地域医療連携体制への取り組み

注目動画1

注目動画2

注目動画3